

公共施設等の景観デザイン

公共施設等の景観デザイン	34
1 各施設に共通する考え方	36
① 公共施設等の機能やまちづくりにおける役割を把握する ② 視点場からの見え方を検討する ③ 時間の連続性を読み取る(歴史を調べる) ④ 自然を生かし生態系を保全する ⑤ ヒューマンスケールを取り入れる ⑥ ユニバーサルデザインを推進する ⑦ 「札幌の景観色70色」を色彩計画の基調として活用する ⑧ 事業者間を調整し、デザインの連続を図る ⑨ 計画的に維持管理をする ⑩ 公共施設エリアに設置する民間の施設も当該景観デザインの考え方を取り入れる	
2 道路	38
(1) 「地」と「図」の分類	38
(2) デザイン手法	40
3 公園・緑地	48
(1) 「地」と「図」の分類	48
(2) デザイン手法	50
4 水辺・河川	56
(1) 「地」と「図」の分類	56
(2) デザイン手法	58
5 橋りょう	64
(1) 「地」と「図」の分類	64
(2) デザイン手法	65
6 公共建築物	70
(1) 「地」と「図」の分類	70
(2) デザイン手法	72

公共施設等の景観デザイン



各公共施設等を「地」と「図」に分けることでメリハリのある景観デザインとなります

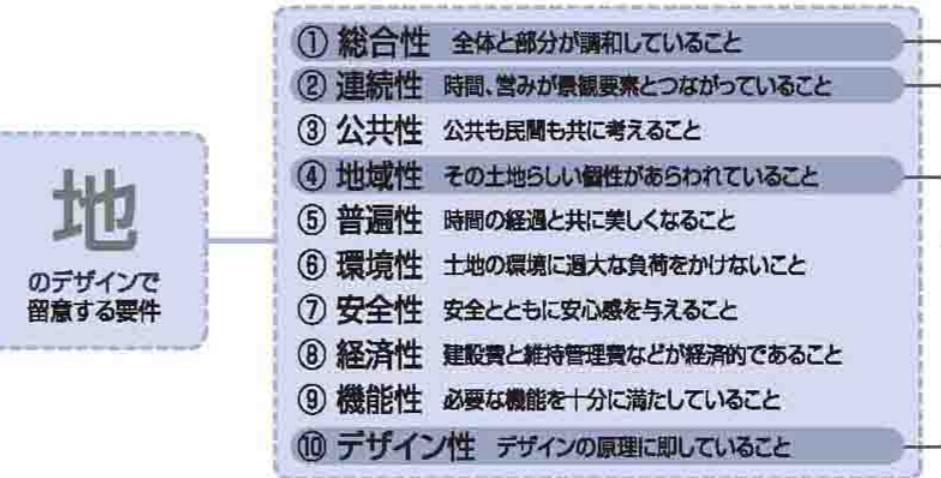
公共施設等には、さまざまな用途や規模があります。また、住宅地の近隣の道路や公園、都心の駅前通りや大通公園、公営住宅とコンサートホールでは、それぞれの役割に違いがあり、一律にデザインを考えるには無理があります。

このガイドラインでは、多くの人が集ったり、ランドマークとなるなど都市や地域のイメージをつくる大きな役割を持つ公共施設等を「図」、都市や地域の景観の素地となる役割を持つ公共施設等を「地」として位置づけ、それぞれの役割にふさわしいデザインを行います。

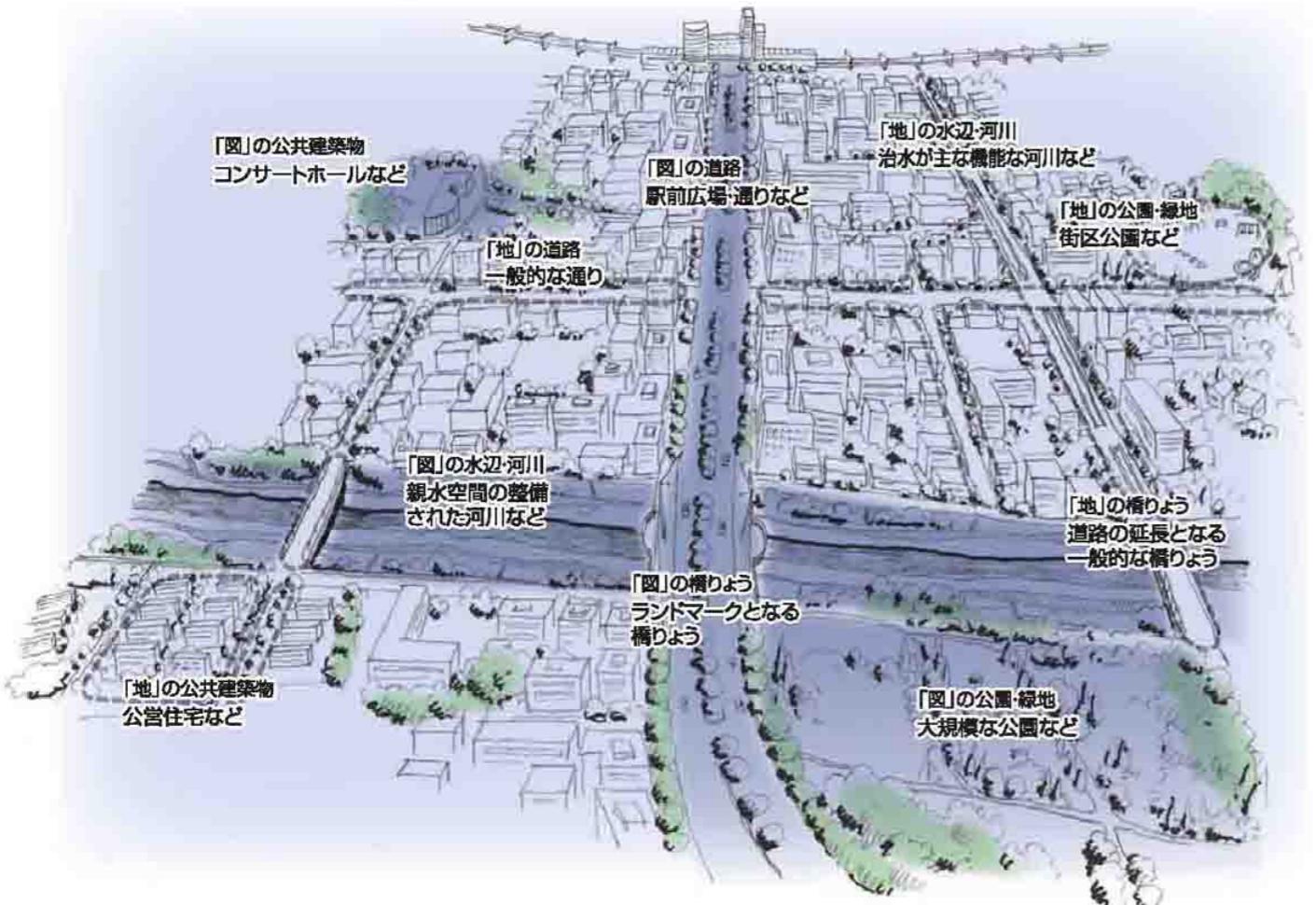
「図」となる施設が「地」となる施設をきちんと見極め、個々の施設が主張しあうデザインではなく、それぞれの役割にあったデザインを行い、メリハリのある「さっぽろ」らしい魅力的な街なみをつくりましょう。

このガイドラインでは、各公共施設等を「地」と「図」に分類します。
この分類に基づき、それぞれのデザイン手法を示しています。

「地」のデザイン手法は、全ての公共施設等が備えるべき基本的な事柄であり、「図」のデザインをするときは「地」のデザイン手法も考慮して行いましょう。



〈イメージ図〉



公共建築物等の全ては完全に二つに分かれるものではなく、場合によっては、「地」と「図」の中間に位置する施設も考えられます。また、道路や河川のようにつながりのある施設は、同一のものであっても場所によって「地」と「図」に入れ替わることがあります。

「地」の公共施設等と「図」の公共施設等の例

	地	図
道路	一般的なもの 	特に多くの人が利用する道路 「図」となる他の公共施設等と一体となり景観を形成するもの
公園・緑地	地域や近隣を利用圏域とするもの 	都市全域を利用圏域とするもの
河川・水辺	手付かずの自然のもの 治水・利水が主な機能となるもの 	公園の親水空間や河川敷の運動施設など多くの人が集まるもの ダムや水源池など
橋りょう	道路の延長となる一般的なもの 	地域のランドマークとなるもの 周辺景観の中で特徴的な景観を形成するもの
公共建築物	主に利用者の限定されるもの 	誰もが利用するパブリック性の高いもの



1 各施設に共通する考え方

① 公共施設等の機能やまちづくりにおける役割を把握する

- 計画する施設の機能を理解し、立地条件、周辺特性を把握する。
- 上位計画、札幌市景観計画などを踏まえ、施設の位置づけやまちづくりにおける役割を把握する。
- 市民の要望や意見を取り入れるため、必要に応じ市民参加の場を設ける。

② 視点場からの見え方を検討する

- 道路や河川、緑地などの軸的景観要素は、西に連なる山々などから俯瞰されるため、俯瞰する視点場からの見え方を検討する。
- 公園や橋りょう、公共建築物などの点的景観要素は、交差点や河川などの視点場から、近景・中景の見え方を検討する。



③ 時間の連續性を読み取る(歴史を調べる)

- 地域の個性を生かした景観をつくるため、地域の成り立ちや歴史的変遷を読み取り、施設に時間(歴史)的なつながりを持たせる。
- まちの将来動向などから地域の変化を予測する。
- 景観重要建造物等や景観重要樹木など、歴史性が高く、地域のシンボルとなる景観資源を保存する。
- 地域の個性をつくりつつある素材を生かす。



④ 自然を生かし生態系を保全する

- 山麓地から平地まで、変化に富んだ地形を生かす。
- 各施設の連携により水と緑のネットワークを形成し、多様な動植物が生息する自然環境を保全、創出する。
- 広葉樹や草花などの導入、季節に対応した定期的なイベントの開催などにより、四季の変化を感じられる景観をつくる。



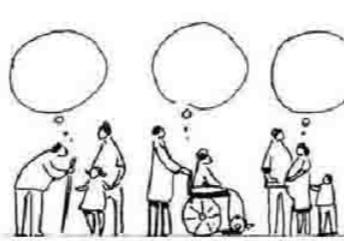
⑤ ヒューマンスケールを取り入れる

- 大規模な建築物や駐車場などを計画する場合は、周辺の街なみとの調和を図り、壁面デザインの分節化や施設周囲の緑化などにより、ヒューマンスケールを取り入れる。



⑥ ユニバーサルデザインを推進する

- 公共空間のバリアフリー化とあわせ、どこでも誰でも自由に使いやすいことが求められる。サインなどの色彩計画では、加齢によって見え方や感じ方が変わっていくことや、視覚障害者に対応するフィルタリングのチェックが必要。
- 積雪寒冷など、季節による環境の変化に対応させる。
- 防災、防犯を考慮した安全・安心な施設をつくる。

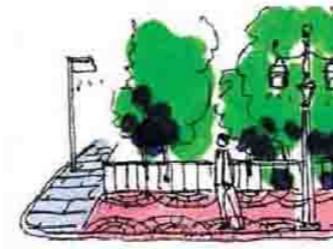


⑦ 「札幌の景観色70色」を色彩計画の基調として活用する



- 札幌特有の色の見え方に留意する。
- 色彩は、施設全体の雰囲気をつくる効果があるとともに街なみに大きな影響を与えるため、周囲からの見え方など十分に検討する。
- 素材や方角などによって色の見え方が変化することを忘れない。
- 自然の多い計画地では、その土地の自然環境に見られる色(木の幹、土、石など)に類似する色彩を使うことも検討する。
- ベースカラーとアクセントカラーの配色バランスは重要。使用面積や色の組み合わせを考え、周辺と調和する飽きのこない美しい配色にする。

⑧ 事業者間を調整し、デザインの連続を図る



- 周辺の施設や関連計画を調べ、隣接する同種の施設が事業者の違いによって、ちぐはぐにならないようデザインし、必要に応じて国、北海道等、事業者と調整する。
- 道路と公共建築物といった、違う種類の施設が接する部分は、一括的な景観を形成する上で重要なため、事業の早い段階で関係間で調整し、共通の方向性を持つ。

⑨ 計画的に維持管理をする



- 施設の劣化が見苦しい景観をつくる要因となるため、計画的に維持管理する。
- ファシリティ・マネジメント*の他、メンテナンスのしやすさ、プログラムづくりなど総合的な維持管理のあり方を考えた設計をする。
- 既存の施設の維持保全の他、ガイドラインと照らし合わせて問題が生じていないかを検討し、改修時において改善する。
- 既製品を上手に活用したり、当該施設建設時に使用した材料をストックすることで、後々の維持管理に役立てる。

⑩ 公共施設エリアに設置する民間の施設も当該景観デザインの考え方を取り入れる



- 公共施設等は、市民みんなのものであり、そのエリア内の民間の施設も市民みんなのものであるという意識を持ちながらデザインする。
- 道路上や公園内などのエリア内につくられる民間の施設は、公共施設等の景観デザインの考え方である「まちづくりにおける役割」、「視点場からの見え方」、「生態系の保全」など①～⑨までの項目をしっかりと読み解き、デザインに取り入れ、周辺と調和する優れた景観をつくる。

*用語解説【ファシリティ・マネジメント】効率的な活動を行えるように、建築物の設備・人員組織などを総合的に管理すること。】



2 道路

1 沿道の快適空間を創出する

道路は、人や車の通行機能や、通風や日照の確保など、さまざまな機能を持っていますが、生活者や旅行者など、日常生活との関わりが大きいため、その質が都市の景観水準を決めるといつても過言ではありません。

車や歩行者からの視点だけでなく、地域住民の生活者としての視点など、さまざまな角度からの見え方を捉え、車道部や歩道部などのデザインを検討することが大事です。

地域の景観要素や公園や河川の緑とつなぐなど、沿道の景観形成を先導する優れたデザインをしましょう。沿道のみなさんも緑の創出や屋外広告物などを整理するなど、協働で札幌のまちの品格をより高めましょう。

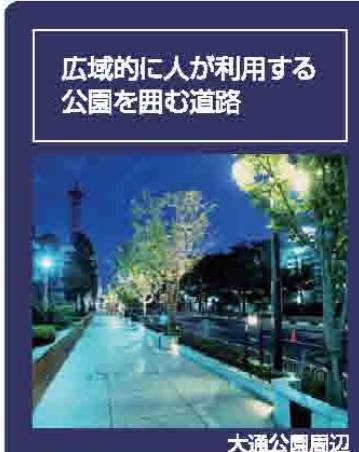
(1)『地』と『図』の分類

都市形成の土台となる道路は、景観の基盤としての役割を持つため、そのほとんどを「地」として位置づけます。

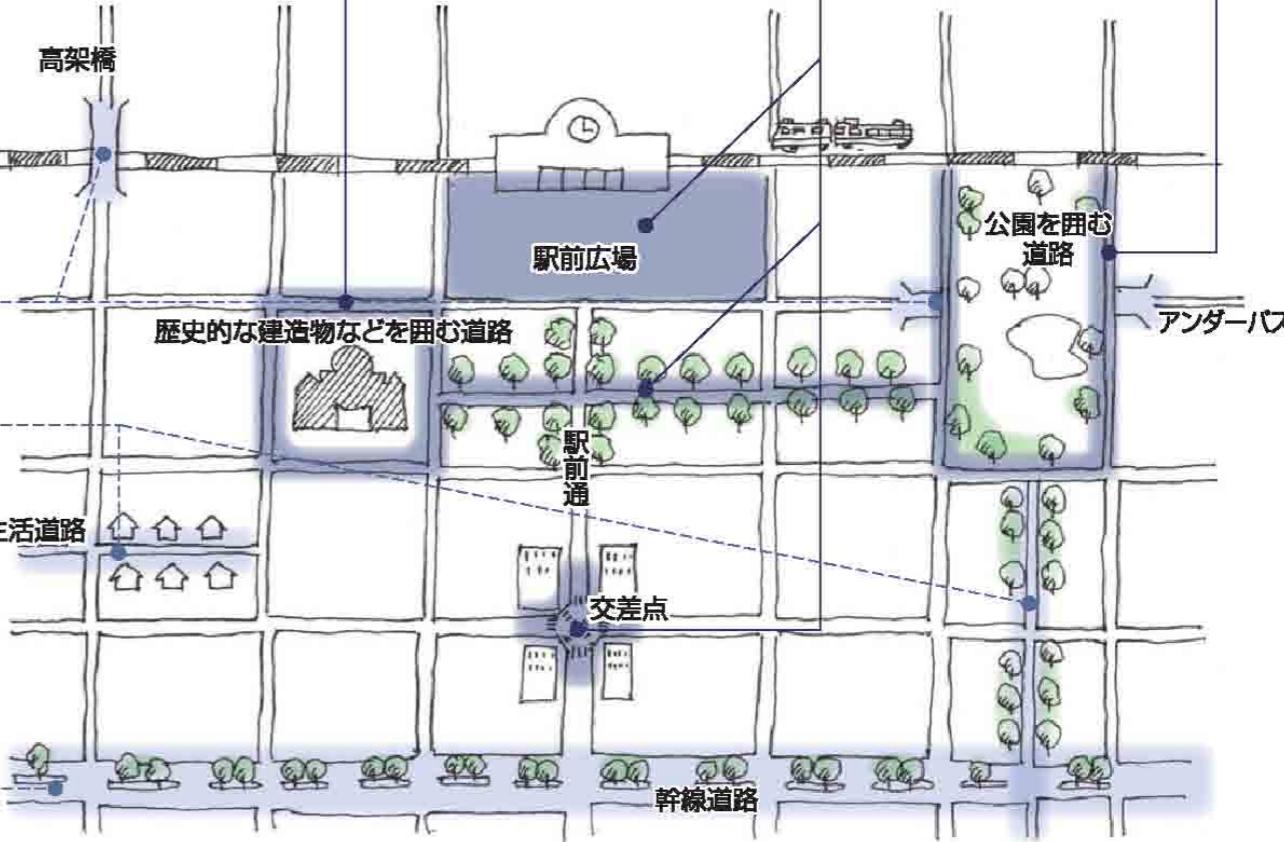
しかし、都市や地域のイメージを形づくる上で大きな役割を持つ、駅前の広場や通りなど、特に多くの人が利用する道路、歴史的な建造物や札幌ドームなどの誰もが利用する公共建築物を囲む道路、大通公園や円山公園などの広域的に人が利用する公園を囲む道路などは、「図」の道路として位置づけます。

道路のようにつながりのある施設は、同じ路線であっても場所によって「地」と「図」が入れ替わることがありますので、「地」と「図」の接続部分については、景観的に連続するよう配慮が求められます。

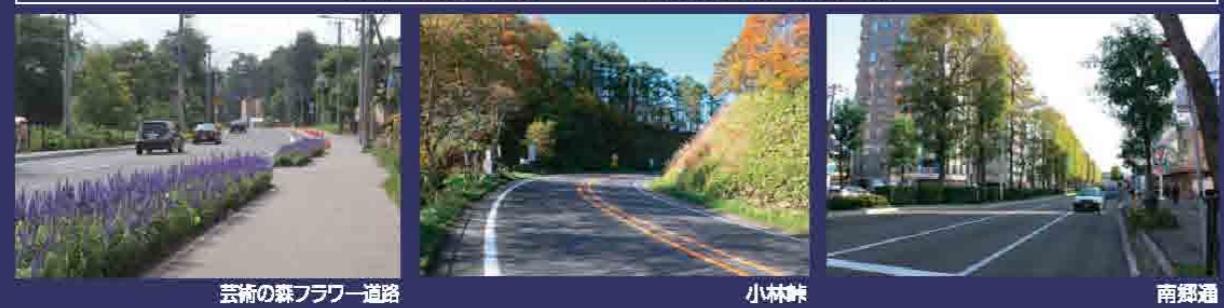
1 図の道路の例



2 地の道路の例



3 広域の交通を対象とした主要幹線道路、幹線道路





(2) デザイン手法

地 テ ザ イ の道路

景観の基盤として、沿道の土地利用などを踏まえつつ、街路樹の配置や雪対策などを考慮した適切な幅員を確保するとともに、機能的で使いやすく、控えめでシンプルなデザインとします。

道路の形

地形を生かした道路線形とする

- 地域の個性を演出するために、山麓地や丘陵地の地形、また、平地における微地形を考慮する。
- 人々に方向感覚を与え、また愛着の持てる景観づくりを行うため、周辺の山々など、地域の景観資源の見え方を考慮する。



微地形が残された道路
(北海道大学農学部附属植物園外周)

地形の改変(切土、盛土、トンネル)

自然に配慮する

- 自然景観や生態系の分断が最小となるよう、切土や盛土は、地形の改変を極力抑えるとともに、やむを得ず改変した部分については、動物や植物の生態系を守るつくりとする。
- 地形の改変を最小限に抑える急勾配の法面は、植物が育ちにくくなってしまう恐れがあるため、場合によっては、自然が復元しやすいよう、ゆるやかな勾配にすることも考える。
- 法面や擁壁面は、できる限り低く抑え、形態を分節化、分割化することで圧迫感を軽減し、さらに、緑化により自然景観に馴染む法面とするよう工夫する。
- トンネルを設ける場合は、地形の改変が少なく、自然景観にじむ突出型の出入り口とし、入り口壁面への自然景観と調和しない華美な装飾は極力避ける。



上部を緑地とし生態系が分断しないよう配慮したトンネル(南沢トンネル)



参考)左:突出型トンネル 右:面壁型トンネル

道路横断面

歩きやすい断面構成とする

- 沿道の土地利用や交通量を踏まえつつ、街路樹の配置を考慮したゆとりのある道路幅員を確保する。
- 両側に店舗が連なっている路地や中通では、歩行者が楽しく歩けるよう、ゆとりある歩道幅員を確保することで賑わいのある空間をつくる。
- 歩道は、段差の解消、傾斜の改善、車椅子の交差できる幅員の確保、積雪時の円滑な除雪など、ユニバーサルデザインに配慮した横断面とする。



ゆとりある幅員の歩道(大通)

景観に影響の少ない高架構造物とする

- 市街地の高架構造物は、街並みの連続性を保つため、堀割式(半地下)や地下式を検討し、周辺に圧迫感を与えない構造形式を選択する。
- 高架構造物は、下から見上げられることが多いため、桁下空間の圧迫感を軽減するため、ヒューマンスケールを超えた無機質なコンクリート構造物とならないよう、スリムに見えるデザインとする。
- 道路景観の中で唐突とならないよう、周辺に溶け込む色彩とする。



藻岩山の景観に配慮したアンダー・バス
(石山通)

軽快なデザインの横断歩道橋とする

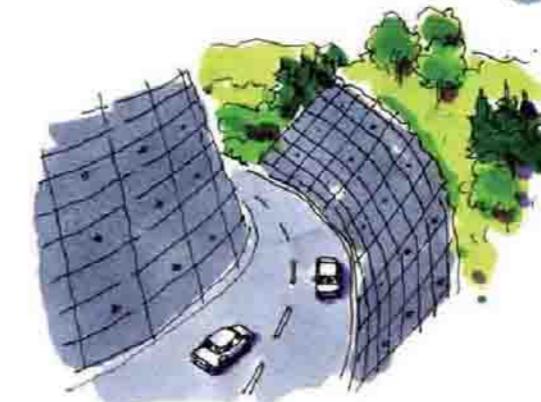
- 歩行者が直近を通り、かつ見上げることが多いので、橋脚、桁、階段部、桁裏、階段裏、配管などの細部のおさまりに注意しつつ、すっきりとした軽快なデザインとする。
- 構造体に塗装仕上げを多用するため、色彩は周辺の街並みと調和する落ち着きのあるものとする。
- 落雪に留意したデザインとする。



すっきりとした歩道橋(札幌ドーム前)

Ex.

自然に配慮不足の がっかり 事例



道路の法面を急で長大なコンクリート工法としたら、潤いが感じられなく、動物の移動など生態系に配慮を欠いたものになってしまった。

動物が通る道や植物の群生など、現地をしっかり確認して計画しましょう。

Ex.

トンネル入り口に華美な装飾をした がっかり 事例

面壁型トンネルの入り口のコンクリート壁面がさびしいので、むりくり楽しげなペイントを施したら、周囲の自然景観から浮き上がってしまった。

たとえ流行の手法だとしても、周辺景観にそぐわないデザインはやめておくべきだった。



道路の緑

潤いのある連続した景観をつくる

- 幅の広い主要幹線道路は、ボリュームのある並木を形成し、都市骨格としての景観軸を明確に表現する。
- 特徴ある並木は、人々に方向性を示す役割もあるため、周辺の街路樹の樹種と変化を持たせた樹種を決定する。
- 中央分離帯に植樹する場合は、安全を考慮しながら緑化に努めるとともに、歩道側の樹木と一緒に道路景観を形成することを考慮して樹種を決定する。
- 並木を計画するときには、樹木の成長により、周辺の視点場からの眺望を妨げないよう、将来の景観の変化を予測しながら配置を検討する。
- 樹木の成長と根茎を考えた、十分な大きさの植樹枠などを計画する。
- 樹木を支える支柱は、樹木が主役となるようなシンプルなデザインとする。



通りの特徴をつくっている中央分離帯の並木(南郷通)

並木の形成

沿道土地利用を踏まえた緑を配置する

- 都心部や拠点では、中高層建物群の街なみ景観を整え、建物から来る圧迫感や屋外広告物の猥雑さを軽減する役割を持つため、高木の並木を積極的に導入する。
- 拠点や高度利用住宅地の高密度住宅地内の生活道路では、歩いて楽しくなるような、緑化を推進する。
- 工業・流通業務地と住宅地が接する部分については、住宅地の住環境を保全するため、街路樹を含めた厚みのある緩衝緑地帯を設ける。
- 一般住宅市街地や近隣商店街などでは、愛着や親しみのある景観を目指し、住民参加による植樹枠への花壇の整備などを積極的に推進する。



屋外広告物景観を緩和するボリュームある並木(札幌駅前通)



工業団地の景観を緩和する厚みのある植樹(手稲工業団地)



住民参加で植樹枠に植えられた花々(芸術の森フラワーロード)

緑により「さっぽろ」らしさや地域性を演出する

- 屯田防風林のポプラ並木や平岸のリンゴ並木などのように、地域らしさを表す樹種を選択する。
- 北国らしい雪景色を演出するため、ナナカマドなど、雪と調和した緑の景観をつくる。
- 昔からある巨木などの樹木は、植生の適合から地域性が表われるとともに、周辺住民から愛着ある景観として認知されているため、道路改修などにあたっては、これらを残すこととする。ただし、やむを得ず撤去する場合は、移植活用を推進する。



地域らしさを演出するリンゴ並木(環状通)

季節を積極的に演出する

- 新緑、開花、結実、紅葉など、緑による四季の変化を演出する樹木や草花を積極的に取り入れる。



四季の変化を演出する黄葉した街路樹(道庁赤レンガ庁舎周辺)

シンボルとなる樹木や並木などを残す

- 地域の個性を継承するため、地域のシンボルとなっている樹木や個性的な景観をつくりている並木などを保存し、生かす。

歩道の舗装

舗装材、舗装デザイン

歩きやすい舗装材を選定する

- 舗装材は耐久性があり、積雪時にすべりにくく、誰もが歩きやすい素材を選定する。



シンプルなデザインの舗装

場所にふさわしいデザインとする

- 安易な模様貼りは避け、場所性を考えた色彩で、シンプルなデザインとする。
- 商業地では賑わいを演出するデザイン、業務地では落ち着いたデザインとするなど、地域特性に合わせてデザインする。

Ex.

道路の緑を考えない がっかり 事例

街路樹を選定する際、コストを低く抑えることや維持管理が楽なことばかり重視していたら、「さっぽろ」らしさや地域の特徴が出てこなくなってしまった。
地域の記憶を残すと良かった!!



1 道路付属物

電柱・電線、電車の架線

電柱、電線などの地中化を推進する

- 電柱、電線が街なみの阻害要因となっているため、良好な景観を形成する必要のあるところでは、電柱や電線の地中化を推進する。
- 電柱、電線を地中化することで、歩道内に大きな構造物が埋設され、街路樹の根が張るスペースが奪われることのないよう、車道下に構造物を埋設することも検討する。
- 電柱、電線を地中化すると、地上部の配電ボックスや信号機などの引込電柱・電線が目立ってくるので、周囲に溶け込むようデザインする。
- 都心部は、中通が猥雑な荷捌き空間となっている場合が多いので、電柱、電線の地中化により、見通しの良いすっきりとした道路景観を形成する。



市電のセンターポール化を推進する

- 市電の架線は、街路樹の配置や眺望景観の阻害要因となっているため、良好な景観を形成する必要のあるところでは、センターポール化を推進する。

信号・標識など

一体的なデザインとする

- 信号機、標識、バス停、分電盤、街灯、柵などの道路付属物は、道路景観を一体的に構成する要素であり、街路樹と調和する色彩や形態などとともに、事業者間でデザインを調整する。
- 広告付バス停については、事業者間で、デザインの統一化を図るとともに、広告は、洗練された落ち着きのある配色、デザインのものにする。



標識などを統合する

- 積雪時の対応により、標識の設置数が多くなるため、交通管理上の機能を確保しつつ、可能な限り数を整理する。
- 特に交差点部分は、信号や標識、照明などでふれるので、共架や統合により、標識などのポールの数量の適正化を図る。
- 信号機、標識のポールやバス停などの案内板は、落ち着きのある色彩とし、街灯などとデザイン基調を揃えたシンプルなものとする。

街灯

温かみのある夜間景観を演出する

- 街灯は洗練されたシンプルなデザインとし、住宅地では低めのポール、商業地では高めのポールとするなど、設置される場所の夜間景観を考慮した器具を設置する。
- 不必要的光を抑えるとともに、光源の色は積雪寒冷気候を踏まえ、温かみがあり落ち着いたものとする。



シンプルなデザインの街灯(北1条通)



1 他の構造物

シンプルなデザインとする

- 地上分電盤などは、シンプルな形状かつ目立たない色彩とし、高さは視線を妨げないよう、人の目線以下とする。
- 地下鉄の出入口や排気塔などは、機能性を踏まえたシンプルな形状、かつ周辺と調和する色彩とし、洗練されたデザインとする。
- 特に、地下鉄出入口を大通公園など良好な眺望景観が得られる場所に設置する場合は、安全性に配慮しつつ、目線を遮らない高さに抑えることが望ましい。

維持管理

公共が行う維持管理

適切な維持管理を行う

- 枝抜き、枝打ちなどを適正に行い、緑と秩序を感じる沿道景観を形成する。

市民が行う維持管理

市民みんなの空間であるという意識を持つ

- 道路は、市民みんなが利用する施設であるという意識を持ち、落ち葉やゴミ拾いなど自分たちができる維持管理を行い、美しさを保つよう努める

改修

改修計画

住民の愛着のあるものを保存する

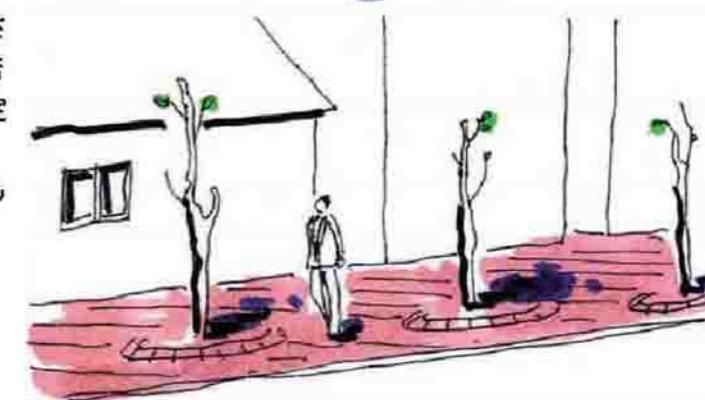
- 道路の改修にあたっては、住民が愛着を持っているシンボル樹木や並木などを保存し、地域の景観を継承していく。

Ex.

景観に配慮しない維持管理の「がっかり」事例

街路樹の葉が落ちて「じゃまさ
い」「きたない」と周辺住民から苦
情がくるので、思い切り良く強剪定
したら、みったくなかった。

豊かな緑は札幌にとって、とても
大事。剪定はほどほどに!





多くの人が利用する道路として、また、「図」となる公共施設等を囲む道路として、周辺の公共施設等との関係や景観特性を踏まえ、舗装やストリートファニチャー、街路樹などのデザインを行う必要があります。

しかし、「図」の道路であっても道路の基本的な役割は同じであり、付加的で過剰なデザインを避けシンプルなデザインとすることは「地」の道路と同じです。

道路の形

立体構造物

景観に影響の少ない立体構造物とする

- 歴史的な建造物やランドマークとなる公共施設等の周辺では、高架構造物や横断歩道橋などの立体構造物は、景観の阻害要因となるよう、設置場所に留意し、意匠や色彩などできる限り存在感を消す。
- 構造物の柱脚や階段などの周囲に植栽を施すなど、周辺の景観に極力影響を与えないよう工夫する。

道路の緑

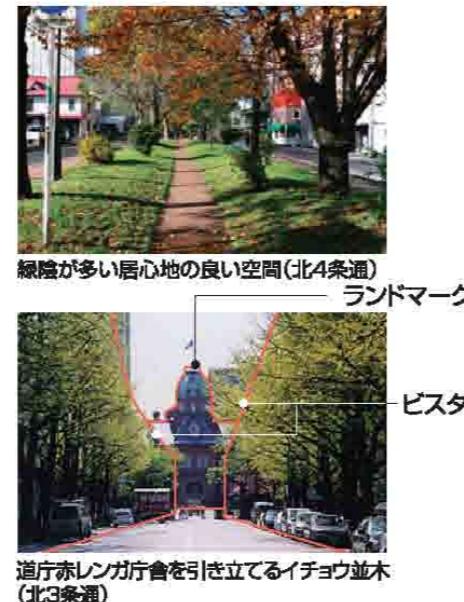
並木の形成

樹木により演出する

- 駅前広場は、多くの来街者を迎える場所に相応しい品格と安らぎを感じられる、豊かな緑の景観とする。
- 札幌駅前通りや水や緑の景観軸は、並木によりビスタを形成するとともに自然樹形の樹木により、緑陰のある居心地の良い空間をつくる。

樹木により「図」となる施設を演出する

- 歴史的な建造物やランドマークとなる施設等など、「図」となる施設をアイストップとする道路は、並木などによりビスタを形成し、「図」となる施設をより引き立てる。
- 公園や緑地など緑地空間を囲む道路は、連続した樹冠線の形成により、緑でつながりを持たせる。
- 並木によるビスタの形成、シーケンス景観や坂道景観など、景観資源の位置や規模、道路線形及び地形的特徴などを把握した上で、効果的な景観演出を行う。



歩道の舗装

舗装材、舗装デザイン

場所にふさわしい舗装デザインとする

- 駅前広場やシンボルロードなど、道路自体が「図」であっても、安易な模様貼りや過度のデザインは避ける。
- 「図」を囲む道路は、「図」の歴史やデザインとの関係性を考慮し、「図」の周辺であることを感じさせる舗装材や舗装パターンを検討とともに、必要に応じて車道部の舗装デザインも検討する。
- 事業者の違いなどにより、他のデザインパターンの舗装と接する部分については、接する舗装の材料や色彩の一部を取り入れるなど、デザインにつながりを持たせる。
- 「図」周辺の統一的な景観イメージを創出するため、道路付属物と一緒にデザインを行う。



道路付属物

信号・標識など



「図」と一体的なデザインとする

- 信号機や標識、バス停、街灯などの道路付属物は、「図」への視線を遮らないよう配置などに配慮するとともに、「図」と調和する色彩を選択し、一体的にデザインする。

ストリートファニチャー、パブリックアート

周辺空間をデザインする

- ベンチに座って見える風景、歩行者動線との関係、樹木、木陰などによる囲み感などを考慮し、人が座って落ち着く空間をデザインする。
- パブリックアートの設置は、まちの魅力を高める上で有効だが、どこでも置けばよいというものではなく、アートの種類や内容とともに、そのアートを置くのにふさわしい場所を選定し、周辺空間をデザインする。



維持管理

公共が行う維持管理

適切な維持管理を行う

- レンガやインターロッキングなどの舗装材は、アスファルト舗装に比べ、劣化の悪影響が強く出るため、きめ細かな維持管理を行う。
- 模様貼りをした舗装は、除雪により大きなダメージを受ける場合が多いので、定期的に管理する。
- 「図」の道路の修繕については、当初の設計コンセプトを尊重し維持管理を行う。



Ex.

あずましくないくつろぎ空間の がっかり 事例

- 舗装やストリートファニチャー、街灯などを統一的なデザインでまとめ、良好な景観をつくることに成功したが、人が座って見える景色や落ち着いた雰囲気づくりに配慮せずベンチを配置したため、あずましくない空間になってしまった。
- 利用者目線を忘れて!!





3 公園・緑地

1 豊かな自然の緑を守り、新しい緑を育て、緑をつなげる

公園・緑地は、災害時の避難の場、運動の場、そして都市環境の保全や生態系の保全、創出の場など、多様な役割を担っており、自然と人の関わりの場として、一番身近な施設です。

豊かな緑は、生活に安らぎや潤いを与え、そして、季節の変化を私たちに知らせてくれる貴重な空間であり、また、読書や遊びの空間として、私たちに楽しさと喜びを与えてくれる大切な施設です。

規模などに応じた市民利用の方法や公園の持つ役割を的確に捉え、自然との調和を図るなど、愛着の持てる良好な景観デザインをしましょう。

2 (1)『地』と『図』の分類

本市の公園の多くは、住区内の住民の利用を目的とする地区公園、近隣公園、街区公園などであり、このような地域や近隣を利用圏域とする公園を『地』と位置づけます。

また、円山公園などの総合公園、厚別公園などの運動公園、大通公園などの特殊公園などは、全市を利用圏域とともに、その役割から市域外からの利用者も多いため、都市を強く印象づけるなど、重要な役割を持つことから『図』と位置づけます。

なお、石山緑地のように小規模でも、都市の個性を強く印象づける『図』となる公園があります。

3 地の公園 緑地の例



地域の利用を対象とする公園



伏古公園

宮部記念緑地



近隣の利用を対象とする公園

前田緑道



なかよし公園

真駒内隣公園

4 図の公園・緑地の例

都市全域の利用を対象とする大規模な公園



真駒内公園



厚別公園



モエレ沼公園



大通公園



芸術の森



石山緑地





(2) デザイン手法



地域や近隣の利用を対象とする「地」の公園・緑地は、主にその公園・緑地の周辺に利用圏域が限定されるため、計画段階や維持管理段階において、住民参加などにより要望や意見を取り入れ、愛着が持て、親しまれる公園・緑地とします。

個性あふれる公園

地域特性の配慮

住民の要望・意見を生かす

- 公園周辺の地域特性、利用する住民の年齢層などを調査するとともに、住民の要望や意見を踏まえ、住民に親しまれる公園づくりを行う。

地形を生かす

- 山麓地の公園は、視点場から得られる俯瞰景観を大切にするとともに、地形を保全し、周辺の自然環境にじむように計画する。
- 丘陵地の公園は、近景となる山なみへの眺望景観を確保しつつ、ゆるやかな地形を生かし、視覚的变化に富んだ計画を行う。
- 平地の公園は、平坦な土地を生かした広場などを設けるとともに、遠方の山なみへの眺望を考慮しながら、冬のスキーやソリの遊び場となる築山を設けるなど、立体的な変化を与える工夫をする。



遊びと景観に変化を生む築山(南郷丘公園)

地域の素材を生かす

地域特性を表現する植栽や素材を活用する

- ハルニレやポプラの巨木など、自然植生にあった既存樹を参考に、地域に合った緑を育てる。
- 札幌軟石など地域に産出する素材や地域固有の景観資源と連携する素材を活用し、個性を演出する公園づくりを行う。
- 公園内に位置する記念碑などの歴史的資源については、樹木や池などの水、石などの配置を工夫し、歴史的資源の見え方をより効果的に演出する。



歴史的資源の水路を配置することで
地域性を表現した公園(真駒内堀公園)

公園の緑

樹木、草花

緑により四季を演出する

- 花をつける樹木、紅葉・落葉する樹木、実をつける樹木、草花などによって季節感を演出する。
- 視覚だけでなく、音や香りも楽しめる工夫をする。

冬の緑を確保する

- 落葉した樹木は、北国らしい冬の景観をつくるが、ともすれば単調な景観となってしまうため、風土にあった常緑樹を効果的に導入する。

シンボルとなる樹木や並木などを保存する

- 地域住民が愛着を持てる公園とするため、地域のシンボルとなっている樹木や個性的な景観をつくっている並木などが計画地にある場合は、これを保存する。



四季の変化を感じられる植栽(天神山緑地)

ボリュームある樹木を育成する

- 公園外周にボリュームのある樹木を育成し、地域の緑のランドマークとなる公園をつくる。
- 周辺街路から公園内の活動が分かるよう、枝下高を確保し、視線を遮らない。
- 公園内の樹木は、樹木の成長による景観の変化を踏まえつつ、樹木本来の成長が可能な配置を計画する。
- 工業・流通業務地と住宅地が接する部分の公園においては、住宅地の住環境を保全するため、ボリュームある植樹帯を設ける。
- 公園内のイベントなどに利用する広場は、芝生で覆い、高木や低木で適度な囲み感を演出する。
- 野球場やテニスコート、パークゴルフ場などの運動空間の外周は、周りの公園空間と分断された景観とならないよう、安全性に十分配慮しつつ、フェンスではなく生垣などの植栽で区分する。
- 公園をリフレッシュする場合は、なるべく既存樹木を保全する。



適度な見通しを確保した公園外周の緑
(希望公園)



生垣と高木で区切られた運動広場
(希望公園)

緑を有效地に活用する

- 公園の一角に花畠や豆畠などを設けることで、畠の草むしりを遊びに取り入れたり、地域住民がみんなで緑を育てたりすることができ、より身近に緑を感じられる喜びにあふれた公園がつくられる。

生態系への配慮

多様な生態系に配慮する

- 自然素材の活用、池などの水辺の導入、多様な緑の創出により、生物の生息・生育空間を確保するとともに、道路や河川などとネットワークを形成し、生態系の保護を図る。
- 在来種の生態系を保護するため、ニセアカシアなどの外来種を排除、制限する動きがあるが、札幌では開拓期のお雇い外国人が持ち込んだライラックなどの外来樹が望郷樹として植えられ、「さっぽろ」らしい景観要素として根付いているため、歴史的資源のある地域では、これらと共生した景観形成を図る。



公園内の生態系を豊かにする水辺
(エド温・ダン記念公園)

Ex.

住民の要望を考えない がっかり 事例

高齢者が多い地区にもかかわらず、今まで通りプランコや滑り台など、子供の遊び場としてデザインした結果、利用されずさびしい公園になってしまった。

公園のあり方などをしっかりと計画段階で整理するべきだった。





1 公園をかたちづくるもの

公園景観に馴染むデザインとする

- 建築物は、自然の素材を取り入れるとともに、洗練されたシンプルなデザインとする。
- 外観の色彩は、夏は木々の緑、冬は雪の白が背景になることを考慮し、お互いが引き立てる色彩計画を行う。
- 公園と建物を一体的に捉え、外部からの見え方だけでなく、建物内部から公園の景観を楽しめるよう計画する。
- トイレは公園の規模、内容によっては標準仕様にとらわれず、公園全体のコンセプトに基づいてデザインする。

建築物



夏の緑と冬の白に映える色彩(芸術の森)

遊具は飽きのこないデザインとする

- 公園にテーマ性を持たせることは大切だが、動物や植物など、イメージの直感的表現はなるべく控える。
- 遊具はデザイン担当者の好みが出やすいため、思いつきで形態や色彩を決めない。
- 子供たちが生き生きと楽しく遊んでいる姿も公園景観の一部なので、遊んでいる姿を効果的に演出するような遊具を導入する。

周囲と調和するデザインとする

- フェンスは、過剰な装飾は避け、シンプルな形状で落ち着いた色彩とする。
- 背の高いネットフェンスは、人工的な緑色と決めつけず、周辺景観に溶け込む落ち着いた色彩を選択する。
- ベンチなどの休憩スペースは、山なみ眺望など良好な景観が得られる視点場として、また、人が落ち着く空間としてデザインする。
- 噴水は夏に清涼感を感じさせる要素であり、水の動きや音が楽しめるデザインとする。また、冬期間の維持管理にも配慮した計画とする。

工作物



子どもが遊んでいるときのようすもデザインに取り入れられた遊具(白石東冒険公園)



山に向かって設置されたベンチ(やまはなサンパーク)

人にやさしい園路計画とする

- 園路は、誰もが園内の散策を楽しめるよう、適切な位置へのサインの設置、段差のないアプローチの形成、足にやさしい木材チップ舗装の採用、高齢者に配慮した休憩ベンチの設置など、ユニバーサルデザインを導入する。

園路



スロープを設けた誰もが利用しやすい公園(ごだま公園)

公園景観との調和を図る

- 駐車場を設ける場合は、舗装部へ緑化ブロックの導入を検討するとともに、周囲に植栽を施すなど、緑豊かな公園景観と一体となったつくりとする。

駐車場

自然になじむつくりとする

- 法面はできる限り小さく低く抑え、形態を分節化、分割化することで圧迫感の少ないデザインとする。
- 法面に植栽を施すとともにラウンディング(崩壊防止と景観を良くするために丸みをつけること)により、自然な印象をつくる。
- コンクリート擁壁を設ける場合は、石などの自然素材を活用するとともに、擁壁下部に植栽帯を設けたり、擁壁を草で覆うなど、コンクリート擁壁を目立たないようにする。



ラウンディング

法面、擁壁

2 安全・安心

植栽、外灯は安全・安心に配慮する

- 樹木の下枝をはらったり、生垣の高さを目線以下に抑えたり、適正な間隔で切り込みを入れるなど、死角を作らないよう留意する。
- 外灯は、雰囲気のある夜間景観づくりに配慮しつつ、防犯上、適度な明るさを保つよう、適切に設置する。



死角をつくらず外との適度な区切りをつくる目線より低い生垣(希望公園)

安全・安心

3 維持管理

適切な維持管理を行う

- 剪定、冬圃いなど、植物の維持管理を適切に行う。
- 遊具などは安全性、景観の両面から劣化に配慮し、定期点検を行う。

4 公共が行う維持管理

市民みんなの空間であるという意識を持つ

- 公園・緑地は、市民みんなが利用する施設であるという意識を持ち、落ち葉やゴミ拾いなど自分たちでできる維持管理を行い、美しさを保つよう努める。

5 市民が行う維持管理

改修

改修計画

住民の愛着のあるものを保存する

- 公園の改修にあたっては、住民が愛着を持っている樹木や池、建物などを保存し、地域の景観を継承していく。

Ex.

デザインプロセスを無視したがっかり事例

公園に物語性を持たせ、子供たちが喜んでくれることを考えデザインしたが、やりすぎてしまったため、周辺景観から浮いてしまった。
公園全体のイメージを大事にすればよかった…。





主に都市基幹公園となる「図」の公園・緑地は、全市域からの利用者を想定しています。都市基幹公園には、運動公園や特殊公園などテーマ性を持った公園が多く、また、規模も100haを超える大規模なものがあり、その特性や規模及び内外の景観資源を生かした都市の顔にふさわしいデザインを行う必要があります。

個性あふれる公園

テーマ性を持つシンボリックな景観を創出する

- “山なみが望める平地の公園”では、山なみをランドマークとする視線の通った並木や水辺空間をつくる。(大通公園、前田森林公园、真駒内公園など)
- “文化・芸術性をテーマとする公園”では、大規模な水辺・河川と豊かな緑、シンボリックな建造物などにより、一体的なランドスケープデザインを行う。(モエレ沼公園、芸術の森、中島公園など)
- “スポーツをテーマとする公園”では、運動している様子が周囲から見え、活気や楽しさなどが感じられるようにする。また、建築物などの施設は、公園と一体感が感じられるようにデザインする。(厚別公園、農試公園など)
- “山麓地に位置する公園”では、背景となる山なみや地形を生かしたダイナミックな景観を形成するため、周辺の自然植生とあわせた緑の連続性に配慮する。(滝野すずらん丘陵公園、平岡公園など)
- “大規模な水辺や特色ある河川景観を有する公園”では、ダイナミックな水辺景観や渓谷景観を保全する。また、建築物などの施設は、自然素材を活用した、周辺に溶け込むデザインとする。(西岡公園、藻南公園など)
- “庭園や展望など、特定のテーマを持つ公園”は、そのテーマの見せ方を工夫することで、テーマそのものを十分に楽しめるように演出し、テーマの過度な表現は控える。(百合が原公園、旭山記念公園など)
- “神社などに隣接する公園”は、石畳や外灯デザイン、境内の緑を考慮した樹種の選定などにより、歴史的価値の高い建造物などと一緒にとなった趣のある景観を形成する。(円山公園、月寒公園など)

公園特性への配慮



手稲山に向かって伸びるキナル
(前田森林公园)



地形や植生を生かしたつくり
(滝野すずらん丘陵公園)



境内から伸びる道を演出する杉林
(円山公園)

公園の緑

多様な生態系に配慮する

- 自然植生を考慮しつつ、樹種が特定のものに偏らないよう、四季を感じる多様な樹種を選択する。
- 水辺・河川を生かし、生物の生息・生育する拠点として整備を行う。

生態系への配慮



公園景観を多彩にし公園内の生態系を
豊かにする池(中島公園)

公園をかたちづくるもの

建築物

環境と調和するデザインとする

- 大きな水辺がある場合は、建築物の池への映りこみや建物内から見る水辺景観など、水辺との交わりを重視する。
- 建築物の周囲には樹木を配置し、建築物が周囲の公園景観に馴染むようにするとともに、規模が大きくなる場合は、屋上緑化や壁面緑化の導入を検討する。
- 観光客など他都市から多くの人が訪れるイベントでは、都市のイメージを印象づける絶好の機会となるため、札幌のイメージアップにつながるよう、プレハブ建築やサインなどの仮設物は、質の高いデザインのものを使用する。



壁面緑化した建物(農試公園)

工作物

品格を感じさせる柵を設置する

- 外周などに設置する柵などは、シンプルな形態で落ち着いた色彩とし、品格を感じさせるデザインとする。

美しい夜間景観を演出する外灯を設置する

- 夜間でも樹木や花などの緑が楽しめるよう、照明の設置を工夫する。特に、水辺やアート、シンボリックな建造物などがある場合は、水面へ反射させたり、対象物を効果的に浮かび上がらせるなど、光の当て方をよく検討する。

パブリックアート

ふさわしい場所にアートを設置する

- アートは、景観に効果的に働くので、設置する場所の選定と周囲の空間づくりとあわせ、その場にふさわしい質の高いアートを設置する。



空間を引き締めているアート(中島公園)

駐車場・駐輪場

規模や空間を分割化する

- 大規模な駐車場は、公園の玄関口として、景観に荒漠とした印象を与えないよう、分散配置とするか、やむを得ず規模が大きくなる場合は、植樹や緑地帯を設けることで空間の分割化を図る。



植栽により空間を分割した駐車場
(札幌ドーム)

公共が行う維持管理

イベント利用を踏まえた維持管理を行う

- イベント後は、芝生を傷めたり、多くのゴミが発生するため、芝生の手入れや清掃など、きめ細かな管理を行い、良好な景観を維持する。